

日商簿記検定 2 級受験のポイント

143 回検定から 3 年かけて、日商簿記検定 2 級商業簿記の出題区分表が大幅に改定されています。2016 年 8 月に日商簿記 2 級指導者向けに、143 回検定問題をもとにご説明させて頂いた受験上のポイントをまとめさせて頂きましたので、必要に応じて、参考にして頂ければ幸いです。

第 1 に、第 4 問・第 5 問の工業簿記対策をしっかりと行う必要があります。工業簿記は出題区分表の改定をしておりませんので、過去の出題傾向を踏まえた対応に加えて、問題文をしっかりと読み取る力、勘定の流れの理解（費目別勘定→部門別勘定→仕掛品勘定→製品勘定→売上原価勘定→損益勘定）を養成して頂き、高得点（少なくとも 8 割以上、32 点以上）を目標に学習する必要があります。

第 2 に、第 3 問の商業簿記対策として、今回の改定において財務諸表の表示が重要視されるようになりました。損益計算書・貸借対照表の財務諸表の表示区分・利益概念・勘定科目等については対策をする必要があります（株主資本等変動計算書は第 2 問で過去出題）。143 回検定において、「貸倒引当金繰入」の表示が出題されましたが、「その他有価証券評価差額金」等出題範囲の改訂に伴う新たな勘定科目等注意を払う必要があります。

第 3 に、第 2 問の商業簿記対策として、143 回検定では固定資産の取引について、増加・減少仕訳、決算整理仕訳を時系列に問う問題が出題されました。今後の対応として、特定分野（現金預金、有価証券、固定資産、純資産等）の取引について、網羅的に理解し、仕訳と勘定記入を確実に行う力が必要となります。今回の検定のように、過去問で見たことがないような形式での出題可能性は十分にありますが、確実に仕訳と勘定記入を行うことができれば、10 点以上の得点は可能です。最後まで諦めずに、仕訳・勘定記入を行う力の養成を行う必要があります。

第 4 に、「商工会議所簿記検定試験出題区分表の改定等について」の 1. 基本的な考え方に「新たに範囲に加わった項目の出題にあたっては、問題の形式や問題文での文言・条件指示などにおいて受験者に配慮するとともに、従来から範囲となっていた項目とのバランスを当然に考慮しなければならないと認識していることを念のために申し添えます。」と示してあります。143 回検定では、ソフトウェア、クレジット売掛金、検収基準、その他有価証券、貸倒引当金繰入の表示等が出題されましたが、どの論点も難易度の高い出題ではなく、受験者に配慮された出題でありました。今後も初めて出題される項目については、同様の配慮がなされるものと予想されます。

第 5 に、143 回検定の合格率は 25.8%であり、142 回の 14.8%、141 回の 11.8%より合格率が良い状況です。出題区分表が改定されたからといって、日商簿記検定は難しくなったわけではありません。難しそうに見える問題であっても、部分点が取れるように配慮される場合があります。自分の合格を信じて、最後まであきらめずにチャレンジしてください。

以上